中西別小学校
学校だより
PTA だより
育成会だより

まつぼっくり

発　行：中西別小学校
校　　長：古森　康晴
PTA 会長：清水　　彰
育成会会長：林　　雅峰

No.１０　　平成 29 年１２月２２日（金）発行

やる気、根気、元気と思いやりの心を育てよう

私たちは子どもの成長を実感し、サインを見逃しません。

夏の終わりから収穫の秋、そして厳しい冬の始まりと、長かった２学期も本日（２２日）の終業式で閉じることになりました。

２学期の子ども達は、水泳記録会や見学旅行（１～４年生）・修学旅行（５・６年）、秋の集会、学芸会などの学校行事、町合同音楽祭や地域文化祭、子どもの成長を見る会などの地域行事において目標に向かってしっかり取り組みました。本日、子ども達にお渡しした通知表「中西っ子」には、その子なりの頑張ったことや、よい面、光った言動、今後努力してほしい点などが記されています。その内容をお子さんと共有し、２学期の頑張りを振り返り、成長した姿を見付けてあげてください。

さて、学校という小さな社会では、喜ばしいことばかりではありません。先日の北海道新聞に「いじめ被害 防ぐには」（水曜討論）という記事が掲載されていました。それぞれの専門家は「いじめが起きる舞台のほとんどは学校です。」「夏休み明けや休み時間にいじめは起きやすい。」「子ども自身が苦痛と感じたら“いじめ”と認識しなければならない。」など、経験や調査に基づいた意見を述べていました。

このような中、本校でも継続的なアンケート調査や個人面談などを通して子どもの小さなサインを見逃さないように努力しています。11 月末に行った「いじめに関するアンケート調査」の結果では、現在、解消していますが、４名の児童が「４月からいじめられたことがある」と回答しています。さらに、気になった調査結果を２つ紹介します。

- ○　６月調査よりは減りましたが、「いじめはどんなことがあっても許されないことだ」と思っていない児童が３人、わからないと回答した児童が２人いました。
- ○　相談相手については、父母・兄弟姉妹が９割を超えていますが、「誰にも相談しない」という児童が４人いて、６月調査より増えています。

いじめの認知件数は年々増加し、昭和 61 年から始まった全国調査においても平成 28 年度の認知件数が過去最多となったそうです。私たちは、この傾向と本校のアンケート結果を真摯に受け止め、どんな些細なことでも本人にとっては大きな問題であり、子どもが心身の苦痛を感じている以上、子どものサインを見逃さず、“いじめ”として捉え、状況に応じた支援や指導を続けていきます。

明日から 26 日間の冬休みが始まります。大人は大掃除や正月の諸準備などで結構忙しいのですが、子どもはその大人の忙しさを見て「師走のワクワク感」を楽しみながら、お正月を迎えます。

しかし、子どもたちの共通課題である「すべる、つくる、働く、勉強する、読む」と担任からの学習課題も出されていますので、しっかり取り組ませたいものです。また、長期休業は「自主性・自立性」を培うよい機会です。楽しい行事や家族の団らんを大切にしながら、自分で決めた日課表、計画を大事にし、スケジュールに沿った生活を自ら積み上げていってほしいと願っています。そのためにもやはり「早寝、早起き、朝ご飯、テレビを止めて外遊び」の生活習慣、メディアコントロールを意識しながら生活のリズムを安定させ、健康・体調の維持に心がけることが何より大切です。

また、いじめの発生が休み明けというデータもありますので、冬休み中のお子様の様子を見ていて何か気になることがございましたら、学級担任もしくは教頭までご連絡願います。

大きな怪我や病気に十分気を付けて、冬休みの学習・運動や生活の目標を達成し、有意義な時間を過ごしてほしいです。新年、１月１８日（木）の始業式には元気な子ども達との再会を楽しみにしております。

最後になりましたが、２学期の終わりにあたり、皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。また、新年もよろしくお願いいたします。